

事務事業名		農業担い手誘致事業				会計	一般会計					
						事業種別	政策	開始	10	終了		
課等名	農業課		係等名	農村振興係								
基本計画上の位置づけ	政策	1	多様な産業が発展できる経済力の強いまちづくり									
	施策	13	新しい力による新しい産業づくり									
目的	対象(誰・何を)	①農業・農村に関心を持っている都市生活者 ②新規就農希望者③地域内住民					対象指標	指標名及び単位			24年度数値	
	意図(どういう状態にするか)	農作業体験を通じ一人でも多くの人に新規就農してもらう						ワーキングホリデー登録参加者のうち通知発送者数(人)			1900	
	向上させたい上位施策の成果指標	新規就業者(新卒のみ)(人)						15～64歳で1次産業就労者を除く市民数(人)			49250	
目標	種別	指標名及び単位				24年度計画	24年度実績	25年度計画	28年度見込み	備考(指標変更など)		
	成果指標	新規就農者数(人)				20	8	20	20			
	定性目標											
事業概要	<p>1 農業ワーキングホリデー事業 (1)農業・農村に強い関心を持っている都市生活者等を、農繁期の人手を必要としている農家にて受け入れ、農業体験を通じて、新たな担い手確保のきっかけとする事業。</p> <p>2 南信州いいだ短期農業体験プログラム (1)新規就農者を十分確保できていない現状を踏まえ、特に飯田市で必要としている果樹の後継者を確保するため、果樹を作目としたい新規就農希望者に絞って参加対象者を募集し、農業体験プログラムを実施する事業。</p> <p>3 農業担い手地育事業 (1)農業に従事していない市民を対象に、農業の新たな担い手として誘導・育成をはかる。</p>											
	事業内容											
24年度事業内容	1 新規就農促進事業 (1)農業ワーキングホリデー事業 ア 春秋の期間集中実施、通年実施(2泊3日～1ヶ月以内) (2)南信州いいだ短期農業体験プログラム(3泊4日) ア 農作業体験、農家民泊、就農相談、地区農業者との懇談会 イ 開催時期 果樹の摘果(5月連休～6月中旬)と葉摘み(10月)					1 (1)参加者数 期間集中実施回数 (2)実施回数			1 (1)455人 (2)4回 (2)2回			
	2 農家の後継者育成 (1)後継者への聞き取り調査 (2)後継者のネットワークづくり ・・・(1)(2)については対象地区を2地区設定					2 (1)対象人数 (2)ネットワークの数			2 (1)10人 (2)1組			
事業コスト		23年度決算額	24年度予算額	24年度決算額	25年度予算額	特定財源内訳、補足						
事業費計(千円)①		921	1,016	1,007	756							
国庫支出金												
県支出金												
起債												
その他												
一般財源		921	1,016	1,007	756							
人件費計(千円)②		0		2,861								
正規職員所要時間				800								
臨時職員所要時間												
総事業費①+②		921	1,016	3,868	756							
事業内容・目標達成状況の振り返り	ワーキングホリデーでは400名を超える参加者を確保することができた。概ね2年間の研修を修了した新規参入者及び農業後継者を含む新規就農者は8名であった。しかし、今年度中に新たに農業研修を開始する者は1組2名であった。											
改革改善の考え方	①問題点	事業開始から15年が経過し、リピーター参加者及び受入農家の高齢化がみられる。全国で同様の農業体験制度が増加しているのに加え、国の新規就農者支援制度が開始されたことにより、参加者及び就農希望者は漸減傾向にある。										
	②改革提案	受入農家の大半を占める果樹農家以外に、畜産、野菜といった多様な農家を増やし、短期農業体験プログラムの対象農家を果樹と野菜の複合経営農家まで拡大して、多様な参加者需要に応える必要がある。										